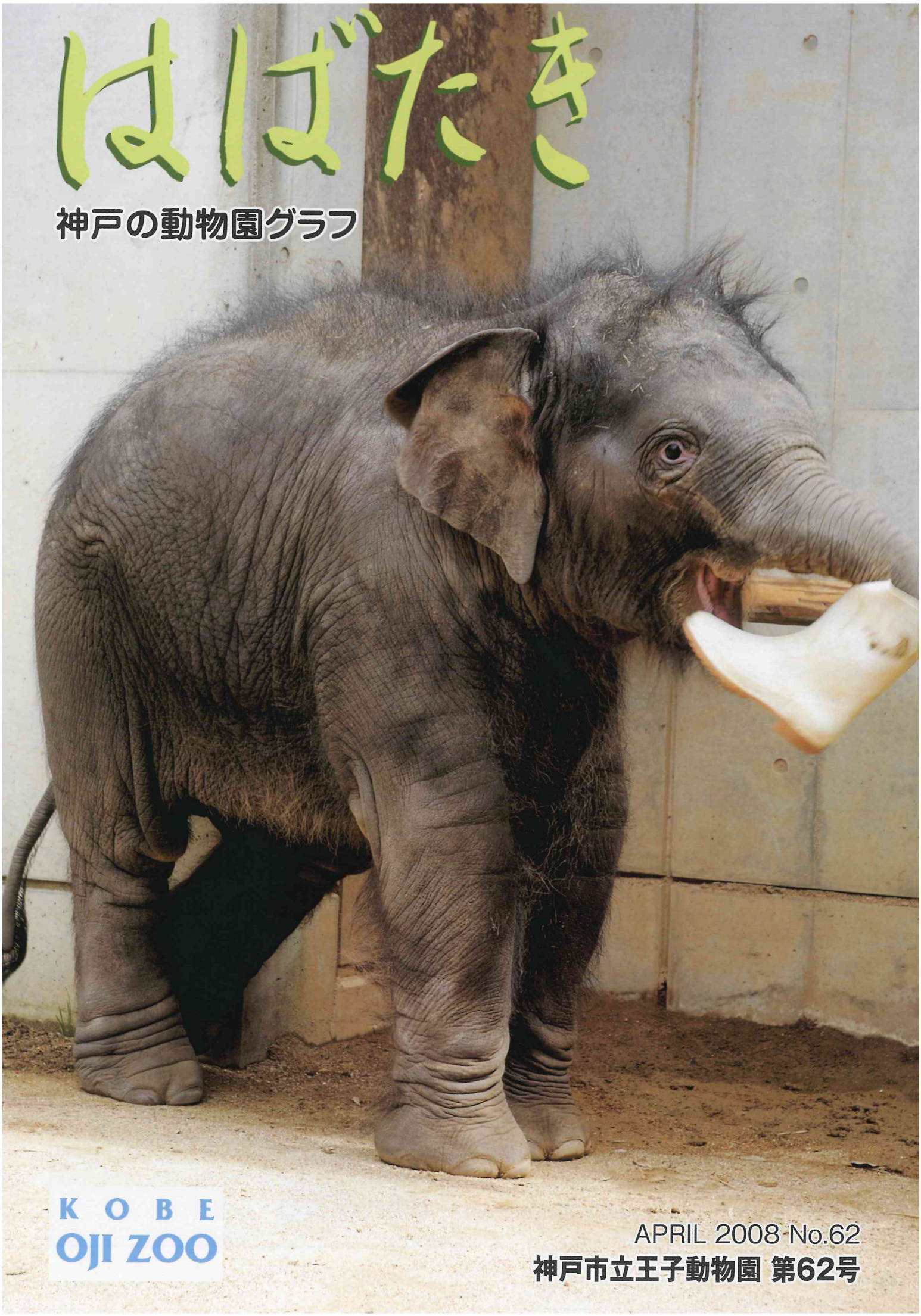
はばたき

神戸の動物園グラフ



KOBE OJI ZOO

APRIL 2008 No.62
神戸市立王子動物園 第62号

はばたき
No.62 APRIL 2008

はじめに

園長の一口メモ ～動物の名前～

神戸市立王子動物園 園長
石川　理

動物園で飼育する動物にはライオンとかではなく、それぞれを識別するための名前があります。まず、名前といえるかどうかわかりませんが、国際的に血統を管理するための国際登録番号、国内登録番号があります。また、今回、動物園で展示している動物を紹介していますが、鳥類を除いてそれぞれ愛称がついています。鳥類は集団で飼育していることや外見から見分けにくいこともあって脚環やタグによって識別していますが、哺乳類はそれぞれ体に特徴があり、また飼育数も少ないため、識別する愛称をつけています。

愛称の付け方には色々ありますが、ゾウの「諏訪子」のように古くから飼育されていたり、カバの三代目「出目男」のように先代から名前を引き継いでいる動物には、漢字で少し古風な愛称がついています。他の動物園から来た動物には、国内外を問わず以前付けられていた愛称をそのまま使っていますが例外もあります。先ほどの三代目「出目男」は、出身の姫路セントラルパークで「ジャウー」という名前（南米に生息し2メートル以上になる大型ナマズ、アマゾンの人喰いナマズとの異名がある）で呼ばれていましたし、ジャイアントパンダの興興は「龍龍」、旦旦は「爽爽」と中国で呼ばれていました。子ゾウ「オウジ」のように公募により愛称をつけられることもありますが、大部分は担当するキーパーがつけたものです。動物園によっては地名にちなんだもの、アルファベット順など愛称の付け方に決まりがあるようですが、王子動物園の場合は特にありません。動物、特に哺乳類を日ごろ世話するのに名前がないとなんともやりにくいものです。特に園内で生まれた動物の場合、早く呼び名をつけないと世話するのに戸惑ってしまいます。昨年10月に生まれた子ゾウを人工哺育するのに愛称が決まるまでの1ヶ月半ほどは、何と声を掛ければよいのか困ったものです。キーパーは動物たちに声を掛けながら日々の世話をしていますので、自分たちの好みで愛称をつけていますが、凝ったもの、なるほどと思うもの、由来不明のものなど様々です。来園される方々に親しみをもってもらうため、愛称のある動物には掲示するようにしていますが、近くにキーパーがいれば愛称の由来を聞いてみてください。

動物たちは人間の言葉を話すことはできませんが、案外言葉を理解しているかも分かりません。それって私のこと、もっといい名前つけてよという声が聞こえてきそうです。

目　次　CONTENTS

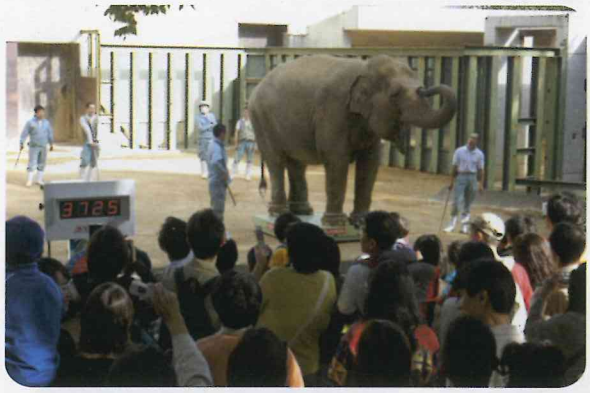
表紙　インドゾウ「オウジ」
p1　はじめに「～動物の名前～」
p2～3　トピックス・イベント「半期分のイベント」
p4～6　特集
北園リニューアルオープン
インドゾウ「オウジ」の誕生
p7～12　担当動物個体の紹介
（1班）ミナミシロサイ・コツメカワウソ
（2班）チンパンジー・ヒグマ・アフリカタテガミヤマアラシ
キンカジュー
（3班）ユキヒョウ・カリフォルニアアシカ
オウサマペンギン・カピバラ
p13　動物教室から
ZOOっとタイムズ　NO.28
p14～15　動物図鑑シリーズ
NO.21「キリン」
NO.22「オランウータン」
p16　動物の話題
ニューフェイス・ベビー誕生・別れ
p17～18　第40回「子年」賀状版画コンクール
特別賞作品掲載
p19～20　特別展より
干支展「ネズミ」
p21　サポーターズコーナー
個人支援者一覧・サポーターズデイ
動物サポーター募集
p22　賛助広告
裏紙　インドゾウ「オウジ」
編集後記

表紙動物
インドゾウ「オウジ」
（長鼻目ゾウ科）
Elephas maximus
日本で元気に生まれた3頭目のインドゾウ。オスとしては国内初の赤ちゃんです。

TOPICS トピックス　イベント EVENT

動物の体重をはかる集い
（11月3日）

昨年までのインドゾウ「ズゼ」とビルマニシキヘビ「ハク」「イチ」に加え、今回はケヅメリクガメの「よしはる」の体重もはかりました。



第21回「動物おりがみでクリスマスツリーを飾るつどい」
（12月2日）

動物科学資料館内ペンギン水槽前休憩ホールで行いました。参加された方に、動物おりがみやクラフトを作ってもらいツリーに飾り付けました。
493名（大人255名、小人238名）参加。

北園竣工記念式典
（12月9日）

大型草食獣や走鳥類を飼育している「北園」ゾーンの改修工事が終わり、一般公開を前に記念式典を行いました。動物たちが、より近くで観察できるようになりました。

TOPICS トピックス イベント EVENT

愛称命名式「子ゾウのデビュー」（12月15日）

昨年10月21日に生まれたインドゾウの赤ちゃんの愛称を一般公募し命名式を行いました。愛称は一番応募の多かった「オウジ」に決まりました。また、この日より「オウジ」の一般公開も始まりました

第17回 干支の引継式（12月16日）

2007年の干支の「亥」（イノシシ）から2008年の干支の「子（ネズミ）」への引継式を行いました。

第19回「大人のための動物園講座」～鳥たちと共に40年～（2月24日）

3月で退職する飼育歴40年のベテラン飼育員がスライドやビデオを使い、これまでの思い出をお話しました。主に携わってきた鳥類の飼育、その中でも怪我をしたコウノトリの世話や、日本一の繁殖数を誇るまでになったフラミンゴの飼育繁殖について聞いていただきました。

動物科学資料館 常設展示の一部をリニューアル

「動物くんただいま食事中」、「動物のいろいろな群れ」、「カンガルー出産」、「パンダクイズ」の4コーナーをリニューアルしました。これからも、おもしろくてためになる解説を心がけます。

（宍戸正芳・森本市郎）

特集 北園リニューアルオープン

北園観覧通路

動物園の最も北側に位置する、北園エリア（草食獣・走鳥類）が昨年12月9日にリニューアルオープンしました。予算等の都合上、2004年度から3期間に分けての改修となりました。

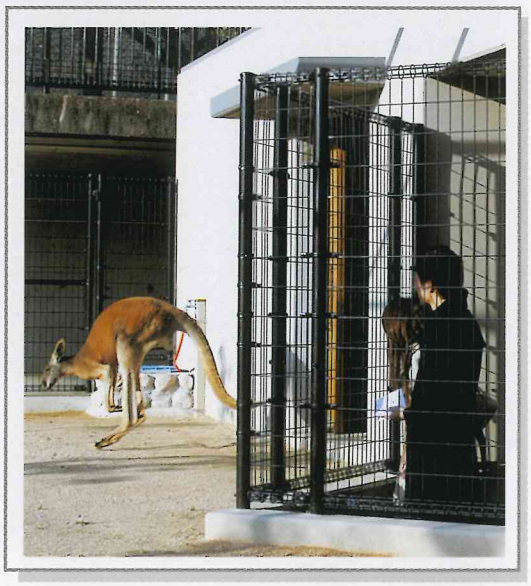
北園の改修工事は1978年（昭和53年）以来、実に27年ぶりになります。動物たちが住んでいるところをこれからも住めるようにするわけですから、当然そのためには動物たちを仮の住まいに移動させなければなりません。警戒心の強い野生動物たちですので、思ったようにいかず難しい作業になります。時間をかけて慣らして（エサ等で）移動させることもあれば、どうしても麻酔銃を使わなければいけない事もあったり、強引に捕獲しなければいけない事もありましたが動物たちも私たちにも事故がなく、無事に移動させることができてひと安心しました。

さて、今回、改修するにあたり大きなテーマは『より近く』ということで以前とは全く違った目線で観覧することのできる通路を作ることでした。

以前の観覧通路は（現在も残しています。）高いところから見下ろすことしかできず、動物たちとの距離も遠かったように思います。また、動物が小屋の中に入ってしまうと全く見えない状態になっていました。そのため、シタツンガ舎・ラマ舎・カンガルー舎・ワラビー舎には小窓を設け、中の様子がのぞけるようにしました。また以前は小屋が北向きにあり、日当たりが少し悪かったので、今回は南向きにし、さらにカンガルー舎・ワラビー舎には床暖房と遠赤外線パネルヒーターを設置し、その他の小屋にもヒーターや扇風機を設置し夏場や冬場もできるだけ快適に暮らせるようにしました。水浴びの大好きなエミューたちの運動場にはプールを作りました。工事期間が長く心配でしたが、カンガルーは順調に繁殖しており、袋がゴソゴソ動いている様子や、袋から顔やしっぽを出している様子を近くで観察することができます。また小窓をのぞくとオスの大きな体を枕のようにして寝ている姿などもとても面白いです。

このように『より近く』なったことで『より生き生きとした姿』を展示できるように工夫していきたいです。

（坂本健輔）



特集 インドゾウ「オウジ」の誕生

インドゾウ「ズゼ」3回目の出産

2007年（平成19年）10月21日の午前8時16分、王子動物園で3回目のゾウの出産がありました。お父さん、お母さんはいずれも「マック」（1992年6月13日、スイス生まれ）と「ズゼ」（1990年4月5日、ラトビア共和国生まれ）です。「ズゼ」は2002年1月11日にメスの子どもを死産（子どもを生んだが、既に死んでいた。）。2004年3月2日にメスの子ゾウ「モモ」（残念ながら寝たきりとなり、2005年4月25日死亡）を出産しました。

今年3回目の出産は初めてのオスの子ゾウで、日本でもオスのアジアゾウが生まれたのは初めてのことです。今回の出産について私たち飼育員が準備してきたことや大変だったことをお話していきたいと思います。

出産に向けての不安

もう知っている方々も多いかと思いますが、「ズゼ」は生まれて3ヶ月の時にお母さんが死んでしまい、飼育員によって育てられました。そのため「ズゼ」自身がお母さんに育てられた経験が少なくどのように子ゾウを育てたらいいのか分からないようなのです。実際、前回モモを生んだあとも、「ズゼ」は自分が生んだ子ゾウを攻撃し、子ゾウが死んでしまう可能性があったため、人工哺育となりました。

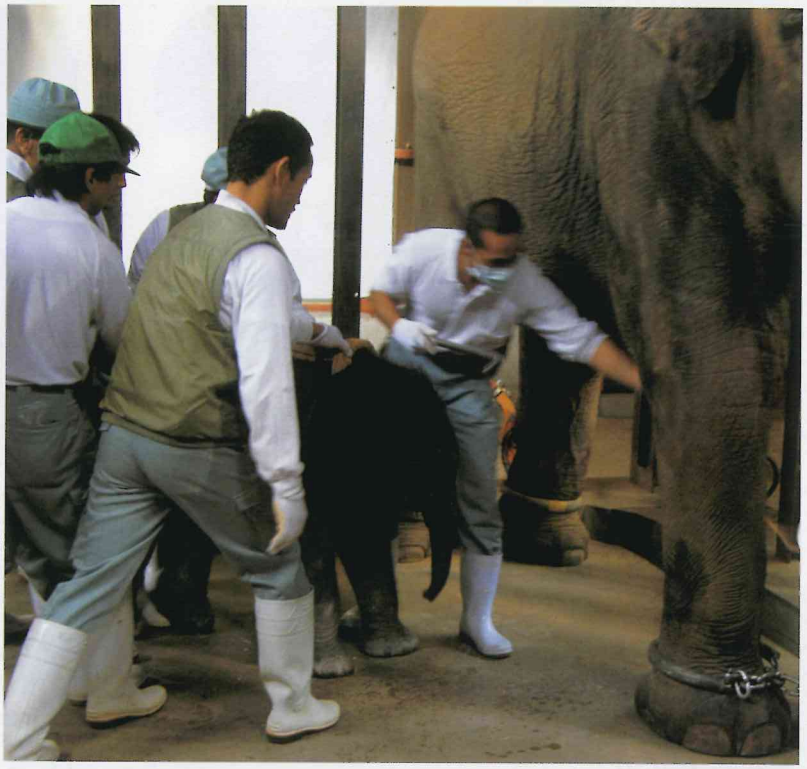
出産の前の年に毎年ゾウの飼育員や獣医が集まる会議があるのですが、そのときに全国のゾウ飼育員からいろんな意見をいただき、またタイのゾウ保護センターの方からも意見をいただいて、今回の出産は「ズゼ」をチェーンでつないで出産させることとしました。でも、普段からチェーンであまりつながれたことのない「ズゼ」はチェーンを引っ張り、切ろうとします。あまりにも激しく嫌がり、ズゼがけがをしてしまう可能性があり、出産直前までチェーンでつなぐか、またつなぐとしても何本の足につなぐのか、飼育員の意見はバラバラだったのですが、最終的にはチェーンは1本で、片方の前足のみつなぎ、生まれた子ゾウをズゼから離して出産の興奮が収まってから会わせることにしました。

いよいよ出産

出産予定日の1ヶ月前くらいから、ズゼの採血（血を採って検査する）を行い、出産直前になると変化するホルモンの検査を続けました。最初、9月下旬か10月上旬に出産があると思われていたのですが、ホルモンに変化が見られません。あまりお腹の中で子ゾウが成長してしまうと難産になる可能性もあり、みんな心配でしたが10月17日（出産4日前）になり変化がありました。その日からゾウ担当飼育員6人全員が動物園に泊り24時間出産に備えました。21日早朝、いよいよ子ゾウが生まれそうな感じとなり、全員がゾウ舎に集まりました。しかし、なかなか生まれません。「子ゾウは大丈夫なのか？」みんな心配しました。待っている間がすごく長く感じました。午前8時16分、暗いうちから待っていて、すっかり明るくなってから「ズゼ」は出産しました。すぐに子ゾウを離すことができ、攻撃されることもなかったのですが、「ズゼ」は普段のおとなしい様子からは想像もできないほど興奮していました。たぶんチェーンでつながずに子ゾウを出産していたら、子ゾウを攻撃していたのでは？と思います。ちなみに体重は154kg、非常に大きなオスの子ゾウで後に「オウジ」と名付けられました。

同居への試み

無事に出産を終えて一安心でしたが、それからも大変でした。興奮してる「ズゼ」が落ち着き子ゾウとの同居を試みたのです。「せっかく無事出産したのだから、母親に育児をしてもらいたい。」みんなそう願っていました。出産時は前足1本をチェーンでつないだのみでしたが、同居させるときには子ゾウも飼育員も危険が伴うため、頑丈に4本の足全部をチェーンでつなぎ、「ズゼ」に鎮静剤を注射して同居を行いました。しかしズゼは薬が効いているうちはいいのですが、時間がたつにつれて興奮し、また子ゾウも母親の「ズゼ」を怖がり、毎日続けていたのですがお互いに変化は見られません。タイの保護センターの方もこんなに怖がるのは初めてだ！ということで打つ手がありませんでした。結局、今回の「オウジ」も飼育員の手で育てられることとなったのです。



人工哺育

前回の「モモ」は骨が弱く、骨折をして残念ながら死んでしまいました。今回の「オウジ」には丈夫な骨のゾウに育ってもらいたい。動物園の獣医もミルクを作るお湯や水をカルシウムが体に吸収されやすいものを使ったり、外国からゾウ用のミルクを輸入したりと苦労しています。またヒト用のミルクにカルシウムやビオフェルミンなどを加えたり、少量だけれども「ズゼ」からミルクをしぼって与えています。当初2時間おきに1日12回与えていたのですが、この文を書いている現在（2月上旬）でミルクの回数は1日8回、体重は274kgまでに成長しました。

これからの課題

「オウジ」が健康に育ってくれることは、非常にうれしいことですが、これから先にはいろんな課題があります。子ゾウは生まれて半年くらいすると、母ゾウの便を食べてミルク以外のものも消化できるようになります。生まれて4ヶ月足らずの「オウジ」に母ゾウの便を与えてみたのですが、まだ食べようとしません。これから成長するにしたがって、母ゾウの便を食べミルク以外のゾウ本来の食べ物を食べられるようにならないといけません。また、これからどんどん大きくなっていくと、今のままのやんちゃな「オウジ」では飼育員に危険が伴ってきます。しつけのトレーニングをいつ頃から始めるのか？課題はいっぱいあります。

最後に

現在、「オウジ」は朝10:30～11:30と、昼13:30～14:30の間、室内にいる様子をお客さんに見てもらえるようにしています。まだまだ赤ちゃんなので気温が低い時などは窓を開けると寒いので、場合によっては中止になるかもしれません。春になって暖かくなると、外に出ている「オウジ」を見てもらえるようになると思います。毎日、少しずつ大きくなっている「オウジ」を応援してあげてください。また王子動物園に会いに来てくださいね。

（芦田雅尚）

3月21日より「オウジ」の屋外公開が始まりました。

担当動物個体の紹介

1班　～ミナミシロサイ～

「サブロー」（オス）

「ナナコ」（メス）

ミナミシロサイ「サブロー」と「ナナコ」

奇蹄目サイ科の仲間で一番大きいシロサイの「サブロー」と「ナナコ」です。1970年に捕獲され当園で29年間飼育、推定38歳以上になり、いまだに繁殖経験はなくお年寄りです。

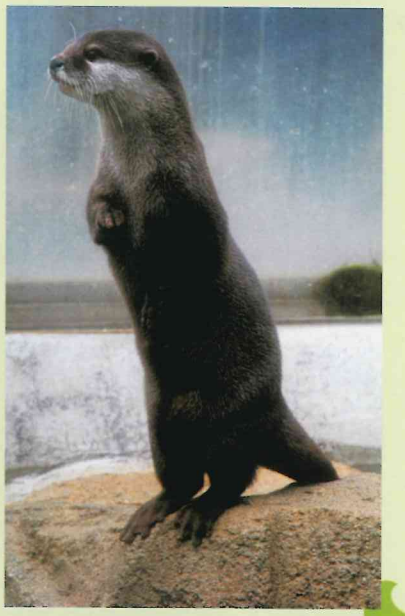
一番のポイントは2本の角です。「ナナコ」の方が長くサブローは短いです。角は横から切ると細やかな毛がぎっしり集まっているように見えますが、骨ではないので栄養にも薬にもなりません。「ナナコ」の体重は1993年6月に計測した時は2120kgでした。エサの食べ方も他のサイと違い幅広い平らな口なので地面にエサが残っていても上手に食べます。1日分のエサの量は1頭当たり青草45kg、乾草10kg、カボチャ5kg、ニンジン25kg、食パン1/2、ペレット2kgです。運動場では行動もゆっくり動き、日照りの良い日は横になって休んでいます。「サブロー」も「ナナコ」もデッキブラシで体をこすってもらうとすごくご機嫌です。泥土を体につけるのも好きなようです。寒い日や雨の日は寝室に入りたがるために、出入り口付近でうろうろしています。「ナナコ」は水があまり好きじゃないので一番先にいます。夕方4時ごろに各寝室に入り、エサを食べます。「サブロー」は、きれい好きなのでワラの上で寝転び、ワラにおしっこやウンチはしません。エサが少ないときはそのわらを食べます。

運動場では飼育員が入っても怒りませんが、寝室に入ると、どちらもかなり怒ります。寒い冬は、赤外線ランプとヒーター、それに敷きわら、乾草を入れて暖かくしています。シロサイの最高寿命は42歳ぐらいで、平均32～34歳。まだまだ元気でがんばって長寿を目指したいと思います。

（田中正幸）

1班　～コツメカワウソ～

「ハジメ」（左）「アケビ」（右）



「アトム」

コツメカワウソ「アトム」「ハジメ」「アケビ」

当園では現在、カワウソを3頭飼育しています。オスの「アトム」「ハジメ」、メスの「アケビ」の3頭です。

昨年の10月31日まではヨーロッパカワウソ、カワウソ界の長老「スケさん」がいましたが、老衰のため亡くなってしまいました。

「スケさん」がいるときは統率がとれていてとても良かったのですが、「スケさん」亡き後、それぞれのカワウソが良い意味で自由になりました。

それでは3頭の個体紹介をします。

「ハジメ」（オス）

インドネシアから国内に密輸するところを、大阪税関に見つかり王子動物園に来ました。推定ですが現在は6歳ぐらいです。

皮膚に疾患があり、体毛は少し薄くなっています。

性格は人懐っこく、遊んでくれと飼育員に攻め寄ってきます。そこで私たち飼育員が一緒に遊ぼうとするとにおいをかいできたり、背中をかいてやったりします。けれど、ゆっくり私たちをかんできたあと、動物は加減を知らないので本気でかんできます。飼育員は血まみれ、「ハジメ」は楽しそうにしている・・・つらいです。

「アトム」（オス）

現在2歳で、まだ子どもです。名古屋の東山動物園からやってきました。見慣れない物などには興味いっぱいですが、すぐに隠れてしまいます。しかし、すごい芸ができます。千葉市動物園のレッサーパンダ「風太」君にも負けず劣らずの立ちっぷりです。昼過ぎに生きたドジョウのエサを与える前によく立っています。

「アケビ」（メス）

現在8歳で大阪の海遊館から来ました。すごくかわいい女性です。

性格はおっとりしていて「ハジメ」「アトム」と日替わりでペアリングさせていますが、全然平気で鳴き声がかわいいです。

また、夏はプールを泳ぐのが大好きです。健康で安定した体なので「ハジメ」か「アトム」との間に、元気な子どもを作って欲しいです。

（前川聡司）

担当動物個体の紹介

2班　～チンパンジー・ヒグマ～

チンパンジー「アーリー」

チンパンジーの「アーリー」（15才、1993年3月30日生まれ）は、6頭のなかで一番注意深い性格の女の子です。感受性が強いのかちょっとした変化にも敏感で、以前は急に食欲がなくなって落ち込むようなこともありました。他のチンパンジーと比べて、かなりほっそりとした体格もそんな性格が影響しているのかもしれません。

人工哺育（飼育員が親がわりになって育てること）で大きくなった妹の「イク」（9才）とは性格も体格も対称的ですが、一緒に暮らし始めてからは見違えるように活発になって（姉妹げんかもしばしばですが・・・）、ごはんも張りあうようにしっかりと食べるようになりました。でも、まだ・・・運動場から寝室に帰ってくるときなどに母親の「リノ」（26才）が必ず付き添っているのを見たりすると、ひとりだちするにはまだ時間がかかるのかなと思ってしまいます。がんばれ！「アーリー」！
ちなみに「アーリー」という名前は、生まれた年にアーバンリゾートフェアというイベントが神戸で催されていたのにちなんで当時の園長が命名しました。

（島田幸宜）

エゾヒグマ「ヨッチャン」

クマ舎の一角にたった一頭で暮らしているのが、エゾヒグマの「ヨッチャン」です。

ヨッチャンは、隣のエゾヒグマ夫婦の間に生まれのですが、育児放棄から飼育員が人工哺育で育てました。ですから、クマのルールもあまり分からず、一頭で生活する事になっています。大変、人懐っこく甘えん坊のヨッチャンですが、食事が近づくと豹変します。また、最近は、少しづつ、クマらしい荒々しさも出て、気まぐれに唸ったりもします。それでも、飼育担当の私には背中を掻いてもらおうとせがんだり、可愛い一面も見せます。

（川上博司）

2班　～アフリカタテガミヤマアラシ・キンカジュー～

アフリカタテガミヤマアラシ「ムム」

2005年6月6日生まれのメスの「ムム」です。
「ムム」はオスの「リュウキ」より体が小さく、頭から肩にあるタテガミが短くて、横にたれていないのが特徴です。少し臆病なのか近づくとトゲを広げてカラカラ音をたて、後ろ足をバンと踏みならし、すぐ警戒態勢をとります。展示場の隅で、じっとしていることが多いですが、朝一番に屋外へ出したときは「リュウキ」と追いかけ合ったり、木をかじったり、体を舐めあったりしています。

最後に餌は、野菜や果物をあげています。最近のお気に入りはサツマイモのようで、前足で上手に押さえ皮をむきつつ回しながら食べます。もちろん皮もあとで食べます。夕方は裏の寝室で食べているところが見られますよ。

（吉田憲一）

キンカジュー「チビ」

名前は「チビ」、2006年に王子動物園に来ました。4歳のオスのキンカジューです。
性格は好奇心が旺盛でわんぱくな男の子です。飼育員が部屋の中に入っていくと、飼育員の周りをぐるぐる回ったり乗りかかってきたりとじゃれてきます。ですが自分が触られるのは嫌なのか、触ろうとするとすぐ逃げ出してしまいます。またある時は夕方に掃除をしようと入った所、姿が見つからず慌てて探したら、なんと天井のライトを壊し、そのまま天井の裏へ逃げ込んでいました。
ほんとにとても、わんぱくな「チビ」ですが、この一月にメスのキンカジュー「モミジ」2歳がお嫁さんに来てくれました。「モミジ」が来たことで少しでもチビが大人になってくれれば嬉しいです。

（梅元良次）

担当動物個体の紹介

3班　～ユキヒョウ・カルフォルニアアシカ～

「ティアン」（右）と「ミュウ」

ユキヒョウ「ティアン」

オスの「ティアン」は新しい血統を残すためにフランスからやってきました。そして、メスの「ミュウ」は東京都多摩動物公園から「ミュウ」のおばあちゃんが暮らしていた王子動物園にやってきました。２頭は室内の檻越しで3ヶ月見合いをしてからグランドで同居飼育していましたが、だんだんとけんかが激しくなり「ミュウ」が大ケガをしたので午前と午後の交代でグランドに出ていました。

「ミュウ」が出ている時に私たちがそばを通ると追いかけてきてガラスに勢いよくジャンプをし愛嬌を振りまきます。

今年は繁殖期だけ週に何度か、1～2時間程度グランドで同居していますが、引っ込み思案の「ティアン」におてんばの「ミュウ」が、何度も近くに行き威嚇（いかく）するので最後にはけんかになります。

いつかは2頭が寄り添う姿と、赤ちゃんに期待したいです。

（関　和也）

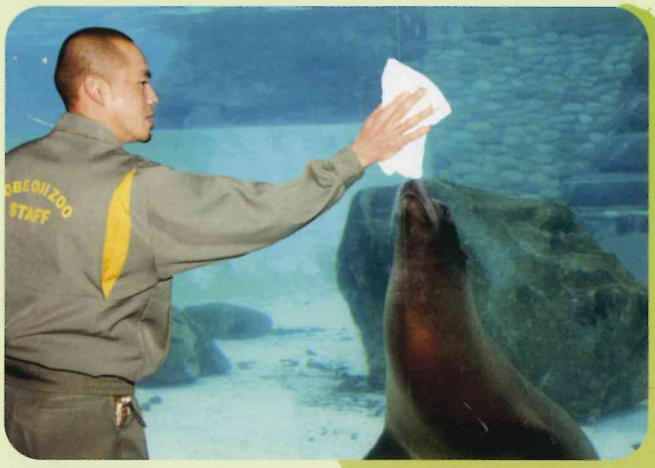
カリフォルニアアシカ「テルコ」

名前は「テルコ」といいます。

２０年前に大阪市天王寺動植物公園から、王子動物園に来た２２歳のメスです。一緒にいるメスは「ヒカリ」といい、以前にいたオス「チュウタ」との間にできた子供です。見分け方は「ヒカリ」の方が、ぷっくりとした体型で、お腹の下の線が1本が「テルコ」、２本が「ヒカリ」です。

人なつっこい性格で、ガラス越しに人にくっついてきたり、ガラスを拭いているタオルを追いかけてきたりします。エサのアジを食べる時も、アジをくわえて水面から顔を出し、振り回して飛んでいったアジを取りに行ったりして遊びながら食べています。時にはエサのおこぼれを狙っているアオサギに飛んでいったアジを取られてしまっています。

（石川康司）



3班　～オウサマペンギン・カピパラ～

オウサマペンギン

当園ではオスとメス、2羽のオウサマペンギンを飼育しております。

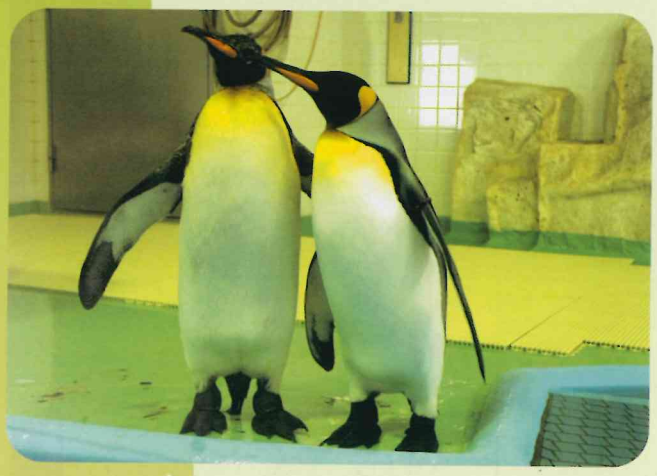
オスはエサであるシシャモの食べ方に特徴があります。普通は頭から食べますが、このオスはシシャモを挟み込むようにして食べます。メスは臆病な性格ですが、実は好奇心旺盛で飼育員にちょっかいをよくかけてきます。

オウサマペンギンの模様は印象的で、銀色をおびた灰色の背中とは逆にお腹は真っ白です。また耳と胸の周りやくちばしの付け根のところにオレンジ色のアクセントがあるところも、この子らのおしゃれのポイントです。

オウサマペンギンはコウテイペンギンよりも、くちばしが長くて体に比べて頭が大きく、オウサマペンギンのオレンジ色の部分がコウテイペンギンでは黄色になっていることからでも、見分けることができます。

二人で寄り添って寝ている姿も愛らしいと思いませんか？

（佐藤公俊）



「チュン」（中央）

カピバラ「チュン」

2002年8月27日生まれのメスの「チュン」です。王子動物園で生まれました。人間の年齢で言うと30～40歳くらいです。

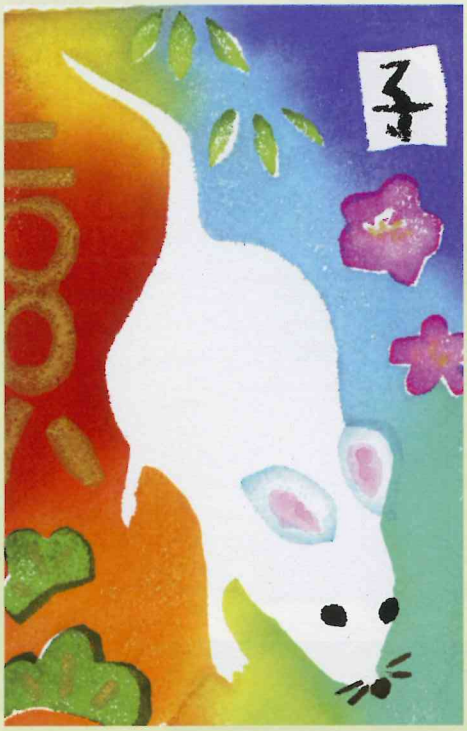
性格は温厚で子ども思いの優しい母親です。一方、現在は7頭いる群れのリーダーでもあります。子どもたちをまとめるしっかり者です。例えばエサを食べる時などは、常に子どもたちを意識しながら食事しているのがよく分かります。

冬の寒い季節などは、みんなで体を寄せ合い温め合って生活しています。とても仲の良い家族ですので、ぜひ見に来てください。

（下田康晴）

第40回 「子年」賀状版画

特別賞作品



神戸市長賞

岩本 修（神戸市北区・箕谷小学校6年）

神戸新聞社賞

宇治川 倫子（神戸市北区・兵庫商業高校2年）

王子動物園長賞

松本 理沙（神戸市灘区・長峰中学校3年）

サンテレビ賞

合田 長（兵庫県西宮市）

コンクールコンクール

点（敬称略）

神戸市教育員会賞

和田 雄介（神戸市兵庫区・菊水小学校3年）

神戸市動物愛護協会長賞

奥田 隆聖（兵庫県姫路市・中寺小学校2年）

神戸市公園緑化協会賞

足立 賀男二（神戸市灘区）

金賞……30点

銀賞……100点

応募総数…1488点

審査:版画家 川西 祐三郎先生

（棚橋一美）

干支展「ネズミ」から

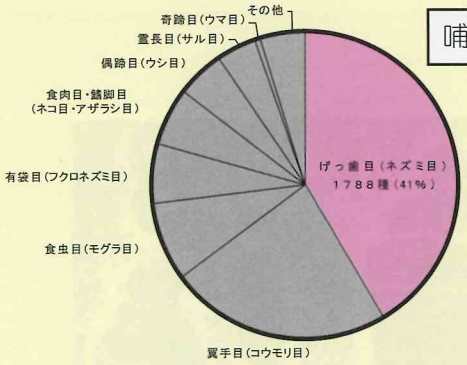
開催期間:平成19年12月25日～平成20年2月19日
（子年にちなみ開催しました。展示の一部をご紹介します。）

会場で飼育展示した2匹のスナネズミ

ネズミってどんな動物?

哺乳類の中で物をかじる特別な歯を持つなかまを、齧歯目（以下、げっ歯目と表記）といいます。「齧」という漢字は「かじる」と読みます。げっ歯目はネズミ目ともいわれます。

げっ歯目は哺乳類約4300種のうち1788種で、全体の41％を占めます。いろいろな環境に適応し、繁殖力も強く南極以外の世界中で見られます。



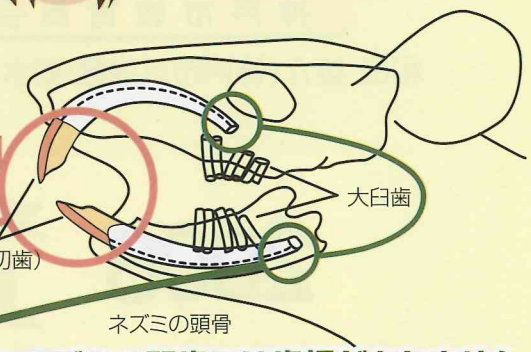
哺乳類の種数に占めるげっ歯目の割合

かじってなんぼのげっ歯目。種類の多さはダントツ1位!
生息数もたぶんトップクラスやーっ

オレンジ色を付けているところが、ネズミでは発達してるのね!

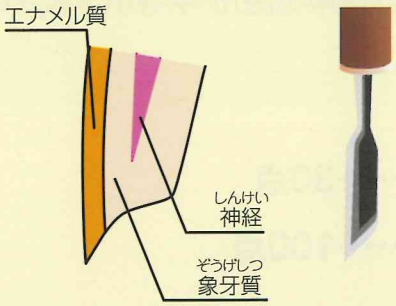
ネズミのなかまは上あご・下あごの両方にある門歯が発達しています。
この歯はとても丈夫で硬いものをかじるのにとても都合よくできています。
逆に硬いものをかじっていないと伸びすぎてしまいます。

やわらかいものばかり食べてたらこうなっちゃった!



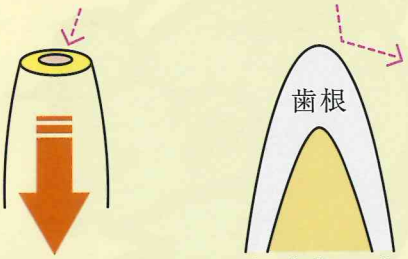
拡大した図…

※ネズミの門歯には歯根がありません



門歯の前側にあるエナメル質はとても硬いので、後ろ側にあるやわらかい象牙質の方が早くすりへります。それでいつも先がとがり、「のみ」のように鋭くなっています。

歯が伸びるための養分



養分が入りのびる　人など歯根のある歯

養分が入らずのびない

ふつう歯は一定のサイズになると、歯根ができ歯の根元の穴がふさがります。しかしネズミの門歯の根元は穴が開いたままで、歯が伸びるための養分が入っていくので伸び続けます。

「家ネズミ」と「野ネズミ」

ドブネズミ（写真提供：土屋公幸氏）

スミスネズミ（写真提供：土屋公幸氏）
1904年　六甲山で発見された。

ネズミは形態的分類とは別に、すむ場所によって「家ネズミ」と「野ネズミ」に分けられ、童話にある「都会のネズミ」と「田舎のネズミ」のイメージによく当てはまります。

「家ネズミ」はハツカネズミ、クマネズミ、ドブネズミをさします。もともと日本にはいませんでしたが、人の生活環境に侵入・適応し、驚くべき早さで増え、どこにでも生息するようになりました。そのため伝染病や食品被害など、人とのトラブルが多くなり嫌われています。

一方、「野ネズミ」は森や野原で人目に付かずひっそりと暮らしており、アカネズミ、ハタネズミ、スミスネズミなどがいます。野ネズミは森林の生態系を守る一員として大きな役割を果たしていますが、農林業に被害をもたらすこともあります。

野ネズミは森林の生態系を守る一員

（1）野ネズミは樹木の管理人…

アカネズミやヒメネズミは、中身のよく詰まった木の実を選んで落ち葉の下や巣穴に貯蔵します。これを全て回収するとは限らず、そのままになってしまう場合もあります。やがて残された木の実は発芽し、森の木になります。また、木にとって有害な昆虫も食べるので木の保護にも一役かっています。

（2）野ネズミは猛禽や肉食獣の食べ物になる…

森林は植物、昆虫、動物などいろいろな生物が関わって成り立っています。この中では「食べる」、「食べられる」という食物連鎖があり、森林は安定しています。野ネズミはこの中で植物や昆虫を食べますが、タカやキツネなどの食べ物にもなります。もし、野ネズミがいなくなると、この森林の生態系は崩れてしまいます。このように野ネズミが森林にいるということは自然が保たれているということになります。

ネズミって悪者…？

病気や農林被害、食料品への食害などを引き起こすネズミたちですが、この害を防ぐには、どうすればよいのでしょう…。

家ネズミについては、地域が協力して生ゴミや残飯の始末を徹底し、下水溝や建物のすき間など侵入経路をふさぎ、ネズミのすみにくい環境を作り出すことが大切です。

野ネズミに付いているダニから人にうつる病気は、ネズミがいる河川敷の草原や野山の茂みに入らないことで防げます。また、輸入されたネズミをむやみに飼ったり、海外旅行で人なれした野生のリスやネズミに触れることも避けたほうが安全です。

農林業の被害の一因としては、河川敷の整備や雑木林の減少により野ネズミが生息地を奪われ、生態系が崩れつつあることにも目を向ける必要があります。

私たちはネズミだけを悪者にしがちですが、家ネズミが増える環境を造ったのは人間であり、野ネズミの場合では生態をよく理解し、自然への配慮とともに問題点に対処していく姿勢も必要だと思います。

カピバラの重さ体験コーナー

「六甲系にすむネズミ」のコーナー

剥製協力：兵庫県立　人と自然の博物館

（宍戸正芳）

動物サポーター個人支援者一覧

・上野しのぶ　・能崎嘉子　・小池浩太郎　・リッピ　・やまぐち なつき　・飯室寛幸
・乾　夏穂　・角永翔虎　・立入真子　・立入誠司　・藤田航季　・熊澤英子
・藤原久子　・杉本有生子　・石田敦子　・藤本幸太郎　・長尾義広　・弘津航太郎
・伊藤加奈子　・田村圭一郎　・田村侑香　・小川泰代

（※平成20年3月20日現在。前号掲載以降、新規登録され掲載希望のあった個人のみ掲載）

サポーターズデイ開催

昨年に引き続き、サポーターの方へ日ごろのご支援に感謝の気持ちをこめて、今年も2月17日に「サポータズデイ」を開催いたしました。当日は、動物サポーターの方をご招待し、動物科学資料館動物園ホールで、王子動物園のこの1年間の出来事をスライドを見ていただきながらご紹介したあと、4つの班に分かれてバックヤードなどを飼育員のガイドと共に見学していただきました。普段見ることのできないゾウ舎寝室内や円形猛獣舎・太陽の動物舎のバックヤード見学や、インドゾウ「諏訪子」やキリンへのエサやりのほか、全員の方に子ゾウ「オウジ」を間近で見ていただき貴重な体験をしていただきました。

日頃のご支援を感謝申し上げます

動物サポーター大募集

～市民に親しまれ、市民とともに活性化することを目指して～

王子動物園では、動物サポーター制度を実施しています。

この制度は、動物園を支援していただける企業等（法人サポーター）・個人（個人サポーター）からの寄附（年単位）を、動物たちのエサ代や動物舎の整備などの運営経費に充てるというもので、動物園をより身近に感じていただき、市民に支えられながら動物園の活性化を進めていくことを目的としています。

法人サポーター

対象は法人・企業・団体で、ご寄附いただいた法人等については、園内の動物舎前等にその名称を記載したプレート（デザイン等は原則共通）を設置します。

また、それぞれの法人等は、王子動物園を支援している旨を記したロゴ入り支援マークを使用することができます。

個人サポーター

ご寄附いただいた個人の方については、お名前を園内の支援者一覧に掲示するとともに、年間パスポートや機関誌、サポーターシールなどを贈呈します。

対象	大人	中学生以下
一口（年額）	10,000円	1,000円

（飯田久人・重田栄昭）

そうさんが一望できるテラス席が大人気！

レストラン パオパオ

PAO PAO

店内には大きな
サバンナの壁画、
天井にはうろこ雲！

そうさんはここから
見るのが一番！

かわいいトラさんのお皿に
入ったお子様にぴったりの
甘口カレー！

レストランパオパオではお客様の満足を満たされるよう「遊ぶ」「楽しむ」「見る」「くつろぐ」などの多彩な楽しみを提供するレストランです。
お子様に大人気のがおがおカレーをはじめ、数多くのメニューを取り揃えております。皆様のご来店を心よりお待ちしております。

神戸市立王子動物園 レストランパオパオ
〒657-0838　神戸市灘区王子町3丁目1-1　神戸市立王子動物園内
TEL&FAX：078-882-1452　http://thomas-kobe.co.jp/paopao.html

かわいい動物グッズや王子動物園でしか手に入らない
パンダグッズなど楽しい商品がいっぱい！

たべたい・・・

パンダプラザ Panda PLAZA　こどもプラザ Kodomo Plaza

神戸市立王子動物園 パンダプラザ・こどもプラザ
〒657-0838　神戸市灘区王子町3丁目1-1　神戸市立王子動物園内
TEL：078-861-5686　FAX：078-882-1452

インドゾウの赤ちゃん「オウジ」

バックナンバー・売店で販売中

50号
「パンダの郷」研修記
飼育レポート
～「友好動物との48時間」～
など

51号
傷病野生鳥獣の救護
チンパンジーたちの
環境エンリッチメント
など

52号
動物たちへのエンリッチメント
～快適な施設～
ゴリラ編
カバの茶目子追悼特集
「王子動物園とともに45年」
など

53号
動物たちのエンリッチメント
～飼育係によるエサの工夫～
長寿功労動物たち
動物の子育ていろいろ
など

54号
動物たちへのエンリッチメント
「動物の遊び」
～ストレスの暖和～
動物ハプニング特集
好プレー?珍プレー?
特集第1弾
など

55号
特集1
「日本初アジアゾウの繁殖」
～モモちゃんの人工哺育日誌～
特集2
「ゴリラの展示再開」
～王子にやって来たゴリラたち～
など

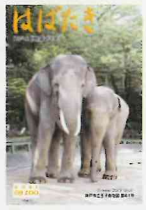
56号
「モモ」(インドゾウ・メス1歳)
の近況
動物の搬入・搬出
①ゾウ編
②フラミンゴ編
③コアラ編
④キンシコウ編
⑤キリン編
など

57号
特集1
「モモちゃん永遠に」
特集2
「外来生物って何?」
ねむる
①サル編
②鳥編
③ゾウ・オオアリクイ編
④ナマケモノ編
⑤草食動物編
など

58号
特集
「フラミンゴの繁殖」
休園日の動物園
①東園の場合
②中園の場合
③西園の場合
④北園の場合
⑤南園の場合
など

59号
特集1
「コウノトリ飼育史」
特集2
「動物園と調査・研究」
繁殖への取り組み
など

60号
特集
「ジャイアントパンダの共同繁殖研究」
動物たちの高齢化対策
①南園-鳥類全般
②東園-ゾウ
③中園-コアラ
④西園-チンパンジー
⑤北園-レッサーパンダ
など



61号
特集
「ルリコンゴウインコの繁殖」
動物たちの出産への準備
(1班)カバ
(2班)ジャイアントパンダ・
インドホシガメ
(3班)インドゾウ
新しい飼育員の紹介
など

- ●特別展開催
- ●ゾウのトレーニング〔毎日11時・2時ごろ〕
- ●ふれあい広場
  …『ふれあいタイム』(団体は要予約)〔毎日〕
- ●動物に関する教育支援事業
- ●動物教室・ペンギンガイド〔日曜・祝日〕

- ●テレホンサービス…☎078−881−8102
- ●ホームページ…http://www.ojizoo.jp
- ●休　園　日:毎週「水曜日」
  (但し、祝日と重なる場合は開園)、
  12月29日から1月1日

編　集　後　記

昨年、10月に生まれた子ゾウの「オウジ」、飼育員から人工乳を飲ませてもらい、すくすくと育っています。お姉さんの「モモ」の飼育の経験から何とか母ゾウのズゼに育ててもらおうと1ヶ月ほどいろいろチャレンジしましたが、うまく行きませんでした。

大家族で経験や知恵を学べた昔とは違って世帯構成が変わってきた現在では、人間も子育て支援の必要性がよく言われています。野生のゾウは、群れで生活し、自然に出産や育児を見て、経験できたのに、動物園生まれのゾウは経験がなく、不安になり、パニックになるようです。動物園では飼育員によるゾウの子育て支援(人工保育)もやむをえないと感じています。

とにかく、りっぱなオスゾウになるよう育て、みなさんに愛されるゾウになって欲しいと願っています。

(副園長　髙井　昭)

はばたき　第62号
2008(平成20)年4月1日発行

企画・監修　神戸市立王子動物園
☎078-861-5624
編集・発行　(財)神戸市公園緑化協会
動物園事業部
〒657-0838
神戸市灘区王子町3-1
☎078-801-5711
デザイン・印刷　(株)岸本印刷所
☎078-262-5471

定価300円(消費税込み)　2008.4.3000